

時 事 新 報

佛蘭西人 一 英國倫敦 高橋義雄

佛蘭西人は驚く可き人民なり不捕ひある人民なり調子外れの人民なり其企圖實行する所、時として人の豫想外に出で尋常繩墨の當て所なき多し此一點に至りては歐洲列國中に於て絶て其比を見ずと申すも可ならん抑も英國の人民は多年海上覇權の軍功今又天下を震盪して獨り海上王の全權を握り地球の處に通商し又その殖民地を開きて自から世界貿易の中心と爲りテームス河上の國會議院は鐵々として空に聳えロンドン地下の鐵道は蟻蟻として街底を走りグラスゴウにはクライド河上一帯の造船場ありリザアールにはメルシー沿岸七英里間の船渠あり海内外の偉功大業一見驚く可きが如くなれども英國の人民は意氣身體共に武骨強壯にして物も當りて荷も動かし動かし必す直進して其目的を達するの氣概ある人種にして此氣概ある人民が彼の絶大なる事業を成就したるは固より以て驚くに足らず事業人物正しく相適應しざる者なりと云ふ可きのみ扱て又日耳曼の人民は聯邦の統一、日猶は後きにも拘はらず陸軍の精強、勝を天下に擅らし學問深遠獨り理論の淵藪と爲り其國天然の福利に富まざるも商工殖産別々富國の道を開きて世界貿易の市場には往々英國人を壓倒せんとするの勢あり是れ亦大に驚く可きが如くなれども日耳曼人は堅忍勳勳若役を辭せざる支那人の如く愛國獨立の精神も富みて物も屈せざる英國人の如く然かも多年の修練も因りて武事に勇むの風あるが故に今日此人民の事業の彼れが如くに赫々たるを見るも決して驚くに足らざるなり孰も誠に尋常として加藤清正が虎を撃ち焚槍が門を破ると一般其事業は其人物骨相に對して恰も相當するを見る可きあり佛蘭西人に至りては然らず古來佛蘭西の歴史を見るもレマン帝以下武功の赫々たる實に羅馬の相續人にして常々歐洲の中原に雄視しナポレオン一世の勃興するに及んではその雄姿を睥睨するが如く四隣列國孰れも其氣息を窺はざる者なし何ぞ其盛衰するや又その政治史を通過すれば帝政と云ひ共和政と云ひ政變革命且善相接し官民軌範し同胞疾視して時々幾千人を虐殺し其残忍酷毒なる至尊を斷頭臺に斬るに至りて極まりと云ふ可し此等の事實より觀察すれば佛蘭西人は武斷發奮なるが如くあれども又一方より觀察すれば給與文藝の思想も富み都雅風流の中心として模範を天下に示すも優にやさしき趣も乏しからず今試に佛蘭西人を見渡すも身體概して英國人よりも小なるが如く顔色は青白くして輕快柔和の情を含み衣服は時好に巧に之を着用し紳士高帽は流行と共に新にして善く云へば巧言令色、酷に評すれば隨從輕薄、交際に禮讓を重んじて武骨殺風景の痕跡を留めず或る英國人の説に世々佛蘭西人は多病なる者ならず佛蘭西人はシヤンパンの代りも飲まらりて醉を飲ませられても是れは誠と結構あるシヤンパンかなどと交際上主人の機嫌を損することを恐れ敢て事實を直言すると能はず云々ありしが佛人極端の人情を穿ち得て妙ありと云ふ可し荷も英米の殺風暴ある國民に接して然る後に佛蘭西人赴きたる人々は鐵道停車場に著し旅館に投じ街を行き知友を訪ふの體に前後の事實を感嘆す可きや疑を容れず英國の詩人ロンドヌス氏は曾てアルプス山上より歐洲各國を

雜 報

○無免狀の旅行を許さず 東海道鐵道開通の上は途中に宿泊せしめて東京横濱より大阪神戸に達し得べければ外國人は海上横濱神戸間を旅行免狀なしに往來爲し居る如く汽車も亦矢張無免狀にて往來し得べしとの請を主張する外國人もあり現に或る國の領事などは盛に其説を主張し居る由かれども現行條約中居留地より十里四方は遊歩規程内として外人の往來自由あるも此の界を越ゆる一步なれば内地旅行免狀を所持せざる可らず昔日交通の不便なりし時は斯る往來の不自由あるも外人に不便の感と與へずして更も苦情も無かりしと雖も東海道鐵道全通したる今日とありては現行條約の許さざる所ある事は百も承知の外人にして到底行はるべしと思はざる遊歩規程外の自由旅行を欲望するも人情の然る處ならん日本政府も豫て外人を厚遇するは最も喜ぶ所なれば條約上の權理は權理として親愛讓與の意より斯る旅行を默許せんとすの親切なき非ざるも到底此親切を盡す能はざる事情ありと云ふは今度我政府は條約改正の聯合協議を止めて各條約國と箇々別々に談判を開くと云ふは既に米國の如きは改正の相談纏りて今にも兩國主權者の批准あらんとするまで運びたる其改正の條約中には米國人は日本國內にありては日本の法律を遵守する事を約し治外法權を犧牲に供し其報償として日本國內に住居旅行の自由を得たりと云ふ米國人は報償を出して得たる其自由を濫りて他人に享有せしむる事は米國も對して爲し難き所なり獨り米國のみならず二三の條約國も米國同様の改正條約を承諾したりと云へば是等の國々に對しても報償なくして日本國內に住居旅行の自由を得せしむ可からず當局者も東海道鐵道の全通したる今日深く外人の不便を察し自由旅行を默許せんとすの心情は盛んありしも前記の次第なれば止むを得ず現行條約の通りにして一歩も擱げざる事と決したりと云へり

○思案の外 俄國皇太子ルドルフ親王が去る一月二十九日を以て遂に薨じたるに付同國皇帝及び皇后の悲嘆遣る方なく帝の頭髮は爲め灰色に變じたりとの事あるが皇后の悲嘆は尙一層甚しく近頃は殆んど狂人又皇太子帝をして自由に再婚して太子を擧げしんが爲め自殺せんとするの素振りあり又時としては枕を抱き太子なりとて頻りに寵愛すると云ふ倍皇太子薨去の事に付ては當時の本紙上も掲載せし如く風説百端孰れを信實と定めがたけれども最も終りよ世に公よかりたる確説と云ふよればマリー・グエツセラと稱する令嬢と情死したるもの如し抑も嬢は一昨年没したる埃及政務駐在の境國總領事グエツセラ伯の女にして美人の聞え最も高く其齡尙十九に滿たず兄は維也納府

に馬術家の名ありて常に競馬場に臨む事なれば嬢も兄と共に競馬見物に赴む或る時より皇太子と相知るに至りたれども始めは眞に朋友の交際に過ぎざりしが去年の夏頃ヨハン大公の周旋によりて終に情を通じたり此事帝室に聞えければヨハン大公は官を奪はるゝと云ふ一大騷擾の後皇太子は益々帝室を離れて住居し從つて醜聲益々四方に傳はる折柄幸よ巴里人にて皇太子と嬢の關係を知りつゝも嬢と結婚せんと申込みたるものありければグエツセラ嬢の一家はマリエル嬢の一家にては皇太子の關係を絶たざる直ち之を承諾せり然る皇太子は去年十二月に至りて之を開き知り大に激して假令一萬乘の位に擢るべき地位を棄つるも嬢と共々生を終へんと明言したり依て嬢は人をして皇太子と説諭せしめ嬢の一家は皇太子は心の變り易き氣質なれば暫らく相見るとなうらしむるも若かずとて堅く嬢の外出を止め置き急に彼の巴里人との婚約を川意したり然るも一月廿九日に至り嬢は突然親戚の許に行くとの書翰を殘して家を出でたるまゝ行衛知れれば母親は早速宮内大臣より其趣を告げて搜索の助力を請ひ帝室も皇太子に電報して歸都を促したり當時皇太子はマイエリングと稱する獵場に滞在の中ありしが電報の達せざる前外出して此れも亦何處へか行衛知れず夜十時に至るも尙は城に歸らざれば居合せたる人々四名にて林中處々を搜索し午前三時と覺し嬢の侍僕ウエルケルが林中の自宅に歸らんとし内は燈火あるを認め驚き且怪みながらも室に入りて能く見れば思ひきや皇太子は獵銃にて額を撃ち抜きグエツセラ嬢は毒藥を服して共に寢床の上死し居たり依て事の次第を向々に通知したる後皇太子の死體は獵城に運びグエツセラ嬢の死體は竊かに他に移して假埋葬したるもの由事少しく密聞に屬すれども偶々嬢の肖像を掲ぐる序で只其概略を記しぬ

○取引所の難解 全國の株式取引所并び米商會所々の今仕組めて今の營業をふそ来る明治二十四年六月三十日限りは定められたるなれ其後より斷然新取引所條例は據るものとは決定なし居らざるのみならず現に昨年九月頃井上農商務大臣演進の趣意も新取引所の仕組めて完全なるものには非ざるに付何と何と修正せざる可らず二十四年六月まででは多少の間もあると云ふれば一は現取引所の營業を許し一は新取引所の修正を試み一舉兩便の路を執りしよと論より農商務局長長井に現取引所の役員且つ新取引所の委員たる人々を歐米諸國に赴かしえむるも亦此邊の意に外ならざるより其道の商人も此分にては營業まで奪はるべき世話なしとて心を絞めし處に農商務省よりの連文中「其期限盡クレハ斷然取引所ニ就テ其取引所ノ業務ヲ經營セシムベク」とあるを見て取引所ある三字は他日南次長一行の歸朝して修正を施したるものとの意味を自然に含めるとは思ひ至らで只一箇の新取引所條例の通

り的事に去るの事なれば嬢も兄びざるものと云ふも明治二十四年六月三十日限りは定められたるなれ其後より斷然新取引所條例は據るものとは決定なし居らざるのみならず現に昨年九月頃井上農商務大臣演進の趣意も新取引所の仕組めて完全なるものには非ざるに付何と何と修正せざる可らず二十四年六月まででは多少の間もあると云ふれば一は現取引所の營業を許し一は新取引所の修正を試み一舉兩便の路を執りしよと論より農商務局長長井に現取引所の役員且つ新取引所の委員たる人々を歐米諸國に赴かしえむるも亦此邊の意に外ならざるより其道の商人も此分にては營業まで奪はるべき世話なしとて心を絞めし處に農商務省よりの連文中「其期限盡クレハ斷然取引所ニ就テ其取引所ノ業務ヲ經營セシムベク」とあるを見て取引所ある三字は他日南次長一行の歸朝して修正を施したるものとの意味を自然に含めるとは思ひ至らで只一箇の新取引所條例の通



グエツセラ嬢の肖像

○常今の... 下流社會 漸く流行 交身を爲す 居たる手 身に供す 段に比して 云ふ代 五十餘 十分の一 亦にもわ して彼我 のなりと 既にして 五穀稔 地土の れて請方 此儘は 救濟を 自由の 赴き 幸を訴へ 何れも 應

○東京新聞 六月二十日 本報 凡九十三頁 凡九十四頁 凡九十五頁 凡九十六頁 凡九十七頁 凡九十八頁 凡九十九頁 凡一百頁 凡一百一頁 凡一百二頁 凡一百三頁 凡一百四頁 凡一百五頁 凡一百六頁 凡一百七頁 凡一百八頁 凡一百九頁 凡二百頁 凡二百一頁 凡二百二頁 凡二百三頁 凡二百四頁 凡二百五頁 凡二百六頁 凡二百七頁 凡二百八頁 凡二百九頁 凡三百頁 凡三百一頁 凡三百二頁 凡三百三頁 凡三百四頁 凡三百五頁 凡三百六頁 凡三百七頁 凡三百八頁 凡三百九頁 凡四百頁 凡四百一頁 凡四百二頁 凡四百三頁 凡四百四頁 凡四百五頁 凡四百六頁 凡四百七頁 凡四百八頁 凡四百九頁 凡五百頁 凡五百一頁 凡五百二頁 凡五百三頁 凡五百四頁 凡五百五頁 凡五百六頁 凡五百七頁 凡五百八頁 凡五百九頁 凡六百頁 凡六百一頁 凡六百二頁 凡六百三頁 凡六百四頁 凡六百五頁 凡六百六頁 凡六百七頁 凡六百八頁 凡六百九頁 凡七百頁 凡七百一頁 凡七百二頁 凡七百三頁 凡七百四頁 凡七百五頁 凡七百六頁 凡七百七頁 凡七百八頁 凡七百九頁 凡八百頁 凡八百一頁 凡八百二頁 凡八百三頁 凡八百四頁 凡八百五頁 凡八百六頁 凡八百七頁 凡八百八頁 凡八百九頁 凡九百頁 凡九百一頁 凡九百二頁 凡九百三頁 凡九百四頁 凡九百五頁 凡九百六頁 凡九百七頁 凡九百八頁 凡九百九頁 凡一千頁 凡一千一頁 凡一千二頁 凡一千三頁 凡一千四頁 凡一千五頁 凡一千六頁 凡一千七頁 凡一千八頁 凡一千九頁 凡二千頁 凡二千一頁 凡二千二頁 凡二千三頁 凡二千四頁 凡二千五頁 凡二千六頁 凡二千七頁 凡二千八頁 凡二千九頁 凡三千頁 凡三千一頁 凡三千二頁 凡三千三頁 凡三千四頁 凡三千五頁 凡三千六頁 凡三千七頁 凡三千八頁 凡三千九頁 凡四千頁 凡四千一頁 凡四千二頁 凡四千三頁 凡四千四頁 凡四千五頁 凡四千六頁 凡四千七頁 凡四千八頁 凡四千九頁 凡五千頁 凡五千一頁 凡五千二頁 凡五千三頁 凡五千四頁 凡五千五頁 凡五千六頁 凡五千七頁 凡五千八頁 凡五千九頁 凡六千頁 凡六千一頁 凡六千二頁 凡六千三頁 凡六千四頁 凡六千五頁 凡六千六頁 凡六千七頁 凡六千八頁 凡六千九頁 凡七千頁 凡七千一頁 凡七千二頁 凡七千三頁 凡七千四頁 凡七千五頁 凡七千六頁 凡七千七頁 凡七千八頁 凡七千九頁 凡八千頁 凡八千一頁 凡八千二頁 凡八千三頁 凡八千四頁 凡八千五頁 凡八千六頁 凡八千七頁 凡八千八頁 凡八千九頁 凡九千頁 凡九千一頁 凡九千二頁 凡九千三頁 凡九千四頁 凡九千五頁 凡九千六頁 凡九千七頁 凡九千八頁 凡九千九頁 凡一萬頁 凡一萬一頁 凡一萬二頁 凡一萬三頁 凡一萬四頁 凡一萬五頁 凡一萬六頁 凡一萬七頁 凡一萬八頁 凡一萬九頁 凡二萬頁 凡二萬一頁 凡二萬二頁 凡二萬三頁 凡二萬四頁 凡二萬五頁 凡二萬六頁 凡二萬七頁 凡二萬八頁 凡二萬九頁 凡三萬頁 凡三萬一頁 凡三萬二頁 凡三萬三頁 凡三萬四頁 凡三萬五頁 凡三萬六頁 凡三萬七頁 凡三萬八頁 凡三萬九頁 凡四萬頁 凡四萬一頁 凡四萬二頁 凡四萬三頁 凡四萬四頁 凡四萬五頁 凡四萬六頁 凡四萬七頁 凡四萬八頁 凡四萬九頁 凡五萬頁 凡五萬一頁 凡五萬二頁 凡五萬三頁 凡五萬四頁 凡五萬五頁 凡五萬六頁 凡五萬七頁 凡五萬八頁 凡五萬九頁 凡六萬頁 凡六萬一頁 凡六萬二頁 凡六萬三頁 凡六萬四頁 凡六萬五頁 凡六萬六頁 凡六萬七頁 凡六萬八頁 凡六萬九頁 凡七萬頁 凡七萬一頁 凡七萬二頁 凡七萬三頁 凡七萬四頁 凡七萬五頁 凡七萬六頁 凡七萬七頁 凡七萬八頁 凡七萬九頁 凡八萬頁 凡八萬一頁 凡八萬二頁 凡八萬三頁 凡八萬四頁 凡八萬五頁 凡八萬六頁 凡八萬七頁 凡八萬八頁 凡八萬九頁 凡九萬頁 凡九萬一頁 凡九萬二頁 凡九萬三頁 凡九萬四頁 凡九萬五頁 凡九萬六頁 凡九萬七頁 凡九萬八頁 凡九萬九頁 凡十萬頁